

各省大臣各位閣下

内閣總理大臣伯爵大隈重信

4549

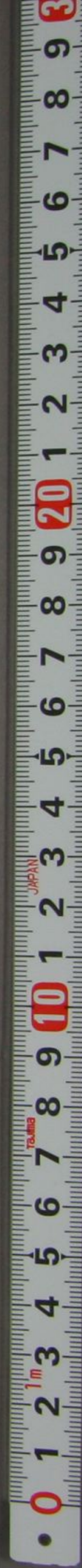
明治三十一年 月 日

政務調査ノ結果各省官制ヲ改革
 官報ヲ以テ之ヲ公布セリ茲ニ改
 革ノ趣旨及各省今後ノ表率ヲ示ス各省
 大臣此趣旨ヲ體シ此表率ニ據リ以テ實
 効ヲ舉ケラルヘシ



天正十一年四月
 天際侯爵郵寄贈

イ14
 A 511



官制ノ防範ヲ嚴ニスル事

國家ノ氣運隆盛ニ赴クニ隨ヒ政務ノ規模亦從テ皇張ヲ要スルハ自然ノ勢ニシテ社會ノ進歩ニ應レ必要ノ事業ヲ施設スルハ政府當然ノ措畫ナリトス只名ヲ政務ノ皇張ニ藉リ叨ヒ官制ノ防範ヲ破リ定負ヲ濫増スルカ如キハ深ク戒シムヘキコト、ス明治十八年太政官ヲ廢シ内閣ヲ設ケラレタル以來、廿三年廿四年ニ官制改革ヲ行ヒ廿六年詔勅煥發シ閣臣命ヲ奉レテ行政各般ノ

整理ヲ謀リ局課ヲ廢合シ冗負ヲ淘汰セシモ廿七八年ノ戰役以後政府ノ施設シタル事業多ク為メニ再タヒ定負ヲ增加セリ試シテ統計表ニ據リ廿六年行政整理ヲ斷行セシ當時ノ判任文官ノ數ヲ廿九年ノ末ニ於ケル判任文官ノ數ニ比較スレハ業已ニ四分ノ一以上ヲ増シ其俸給ハ五分ノ二ヲ加ヘタリ是レ或ハ國運ノ進歩ニ伴ヘル自然ノ結果ニ出ツモノアルヘシト雖モ從來各省事務ノ平衡ヲ缺キ行政機關ノ統一ヲ失ヒ各省互ニ所部ニ私シテ漫ニ其

組織ヲ尅大ナラシムル傾向アルハ蓋シ其一大
病源ナリトス各省大臣宜シク前轍ヲ鑑ミ痛ク
限制ヲ加フヘキナリ

事務官ノ進退ヲ重ニスル事

行政ノ事務ヲ執ルモノハ宜シク實用ノ學識ト精敏ノ
技能トヲ有シ事務ノ通曉シ典例ニ習熟スルモノ
ナルヲ要ス然ラズンハ安ソク機關ヲ整齊シ國家
要務ノ實績ヲ擧キクルコトヲ得ンヤ故ニ老朽其
職ニ堪ヘス或ハ學術技能ノ修養ナキ者ノ如キハ
固ヨリ之ヲ淘汰シ以テ行政事務ノ刷新ヲ圖ル

ヘキモ内閣ノ交迭アル毎ニ屢々事務ニ練達セ
ル官吏ヲ罷免スルカ如キハ徒ラニ要務ヲ梗塞シ
シ行政機關ヲシテ時勢ノ進運ト相背馳セシム
ルノ弊ヲ生スルノ虞ナシトセス各省大臣宜シク
事務官ノ進退ヲ重ニシ度僚ヲシテ能ク其地
位ニ安シシ銳意熱心職務ニ執掌セシムヘシ

職責ヲ明ニスル事

高等官ハ行政各部ヲ担任シ職務ヲ掌ルモノニ
シテ屬官ハ其命ヲ承ケテ庶務ニ従事スルモノナ
ルハ官制ノ上ニ於テハ昭然其職責ヲ明ニスルニモ

拘ハラズ因襲ノ久シキ事ノ輕重大小ヲ問ハス琴
ケテ之ヲ屬僚ニ一任シ高等官ハ虚銜ヲ守リ空
押ヲ事トスルニ過キサルノ弊ヲ生シ其職責ヲ
重シシ専心一意掌任ノ事ニ恪勤スルモノハ極メ
テ寡々タリトス各省大臣宜シク選叙ヲ慎ミ吏
僚ヲ戒シメ親シク其功績ヲ察シ嚴ニ黜陟ヲ
行ヒ以テ職務ニ忠實ナラシムヘシ

材能ヲ拔擢スル事

明治廿年文官試験規則ヲ制定シ奏任文官ニ
仕進スルモノハ必ス高等試験ニ由ラシメタリ

夫レ高等試験ハ專ラ學術試験ヲ行フニ止マル
ヲ以テ已ニ高等ノ教育ヲ受ケタルモノモ再ヒ
學術試験ヲ經サルヲ得ス殊ニ判任文官ニシテ多
官務ニ従事シ其功績彰著ナルモノト雖モ高等
官ニ進叙セララル、ノ途ナキヲ以テ材能經驗アルモ
ノハ其屈抑ニ堪ヘス相繼テ官ヲ去ルニ至リ行政
機關運輸ノ上ニ於テ阻礙ヲ来タスコト勦カラ
ス依テ文官任用令ニ改正ヲ加ヘ高等試験ニ要
スル學術ノ修養アルモノハ別ニ試験ヲ要セスレテ
高等官ニ任用スルコトヲ得ルノ見程ヲ設ケ且ツ

判任官ニシテ任官中、能ク其事務ニ練達シ、
績拔群ナルモノ、如キハ銓考ニ由リ其奉仕ス
ル所ノ官衙ニ限リ高等官ニ進ムコトヲ得セシ
メ又雇負ニシテ一定ノ規限内、官務ニ従事シ
能ク其事務ヲ諳ニシ處理敏給ナルモノ、如
キハ其現ニ奉職スル所ノ官衙ニ限ラス判任
官ニ任用スルヲ得ルノ制ヲ設ケ其進路ヲ開
キ大ニ吏僚ヲ鼓舞シ庶政ヲ振興スヘシ

職給制ヲ完備セシムル事

明治十八年内閣創置ノ時、當リ叙メテ職給

制ヲ設ケラシ執務ノ繁閑ニ従ヒ俸給ノ等差ヲ
定メ以テ第ニ陞テ増俸ヲ得ルコト、シタリ今日ニ
在テハ判任官ニ限リ最高給ニ達シ更ニ年勞ヲ
積ムモノニ對シ特別俸ノ制アルモ高等官ニシテ
多年其職ニ従事シ功勞アルモノハ已ムヲ得ス他
ノ官給、官職ニ轉セシメ為メ却テ其ノ能ク
スル所ヲ罷メテ其能クセサル所ヲ強ユルナキヲ
保セス是實ニ職給制ノ猶欽廢セルニ由ルナリ依
テ各官共身分ノ高下ニ拘ハラズ事務ノ繁閑ニ依
リ俸給額ヲ規定シ久シク一定ノ地位ニ在リテ功

績顯著ナルモノハ特別俸ヲ給與スルノ制ヲ設ケ
タリ此レ適任者ヲシテ永ク其地位ニ安ンセシメ官
其器、稱ヒ職其能ニ合セシメントスルノ意ナリ

餼俸ヲ厚クスル事

判任官ノ俸給令ハ明治四年ニ創定セラレシヨ
リ十年廿四年ニ多少ノ改正アリシモ其給額ハ依然
二十余年前ノ舊制ヲ襲用スルニ過キス然ルニ
世運ノ進歩、随ヒ人民ノ生計漸次其度ヲ高
メ物價益騰貴シテ下級官吏ノ困難實ニ
名状スヘカラサルモノアリ夫レ其俸給ヲ厚

クシ仰養俯育ニ足ラシメ然ル後、廉耻ヲ
勵ニ誠實事ニ任スルヲ望ムヘシ到底今日
ノ俸給ニテハ器能アル僚属ヲ得シコト能ハ
サルノミナラス薄給官吏ヲシテ困難ニ陥ラ
シムル結果ハ遂ニ其地位體面ヲ保持スル能
ハスシテ官純ヲ紊亂スルノ弊ナキヲ得ンヤ
依テ判任官俸給令ヲ改正シ属僚ヲシテ安
ンシテ公務ニ鞅掌セシメ且勞効ヲ察察シ
優ニ獎勵ヲ加フヘシ

定負ヲ減スル事

行政事務ノ繁否ハ官吏ノ能不能ニ在リテ其
多少ニ在ラス定負冗多ナレハ却テ煩擾ヲ招キ事
務壅塞、緘貫解弛、責任ヲシテ歸スル所ナカ
ラシム安ソフ庶政ヲ刷新シ其實効ヲ收ムルコ
トヲ得ンヤ定平口定負ヲ減少シ其餼俸ヲ厚フ
シ随テ考課ノ法ヲ嚴シシ練數ノ方ヲ密シシ
老朽ヲ汰シ不能ヲ黜ケ苟モ負ヲ備フルヲ求メ
スシテ必ス其職ニ耐ユルモノヲ擧クルコト若カス此
ノ如クナレハ賢材其用ヲ尽シ吏僚其職ヲ曠
フセス成テ主員メ實ヲ考フルニ於テ自ラ其頭緒

ヲ得、少数練達ノ能吏ヲ用ヒテ其實務ヲ
擧クルコトハ多數ノ吏負ヲ設クルヨリ大
ナルヘシ此レ定負ヲ減削スル所以ナリ

特別官職ヲ廢スル事

明治十八年ニ内閣ヲ創設セラレタル以來、普通
行政機關ハ局長參事官書記官ヲシテ其要
部ヲ擔當セシムルノ制ニシテ只其特別ノ事業
ニ對シテハ特別ノ官職ヲ設クル規定ナルモ參事
官及書記官ノ定負ニハ制限アルヲ以テ監督官
事務官等名義ヲ以テ叨リニ特別官職ヲ置キ

而シテ實際普通ノ行政事務ヲ掌理セシムルカ
如キハ政務多端ノ際已ムヲ得サルニ出タルモノ
ナキニ非ルモ各省官制通則ノ趣旨ニ反戾シ人
ノ為メニ官ヲ設ケタルノ看アリ依テ各省ニ就キ
嚴密ニ查敷シ必需ノ職事アルモノハ定員外
ニ増置スルノ制ヲ設ケ曠官ノ嫌アル特別官職
ハ之ヲ廃止セリ

事務ヲ敏活ニスル事

太政官時代ニ在テハ行政官コレテ高等ノ學識
ヲ有シ吏務ニ通曉セムモノ鮮カリシニ由リ一

令出ル毎ニ疑問百出、経伺ノ文書積ンテ堆テ
為シ太政官ハ之カ為ニ冗多ノ吏負ヲ要シテ
此事務ヲ担掌セシメシモ尚其煩ニ堪ヘサリキ
顧フニ明治十八年内閣創置ノ時ニ際シ特ニ繁
文ヲ省クノ綱要ヲ提擧シ各省ヲシテ此綱要ニ
基キ略一定ノ文書取扱規程ヲ定メシメタル亦
此弊ヲ矯正セント欲スルノ意ニ外ナラス然ルニ行
政各部ノ事務今尚キ淹滞遲緩ニ流レ簡捷敏
活ヲ缺キ更ニ改善ノ實ヲ擧テクハコトヲ得サルハ
施政上最モ檢明ヲ要スヘキ事ニ屬ス顧フニ考

試ノ制一タニ定マリタル以來、學術技能ヲ有セ
サル老朽官吏ノ如キハ前後相退謝シ現ニ委任
以上ノ官職ニ在ルモノハ高等試験ニ及第シタル
モノニ非サレハ特殊ノ學術技能ヲ有スルモノナ
ラサルハナシ而シテ尚今日ニ在テ徒ラニ法令ニ
関スル解釋ノ争ノ為メニ行政事務ヲ阻滯
セシムルカ如キノ事實アルハ其職ニ在ルモノノ規
矩繩墨ニ拘泥シ機宜變通ノ材ニ乏シク胸中
一定ノ考案ナクシテ力メテ他ノ見解ヲ批議シ
或ハ因循姑息ニシテ自ラ其責任ヲ避ケントスル

八

ニ出ツルモノニシテ斯ノ如キハ宜シク之ヲ戒飭シ
勉メテ空論ヲ省キ實務ヲ興テケシメ又上司
ノ下司ニ對スル委任條件ヲ擴張シ從來稟請
申覆、幾多ノ高確ヲ重ネ互ニ責任ヲ推譲シ
要務ヲ延擱スルノ弊ヲ除キ主任官吏ヲシテ
自ラ責ヲ負フテ處理セシメ且事務ノ辦理上別
ニ文書ヲ要セサル事項ノ如キハ概ネ面議ニ依リ
即時ニ之ヲ處理スルノ捷徑ヲ取り以テ大ニ行
政事務ノ敏活刷新ヲ圖リ吏治ヲシテ起色ア
ラシムヘシ

官紀ヲ振肅スル事

官吏ヲシテ名節ヲ砥礪シ操守ヲ慎固ナラシムルハ政府ノ威信ヲ保持シ上下ノ情意ヲ感孚セシムル所以ナリ若シ官吏自ラ其職ヲ重シセス懈怠惰慢賄賂自ラ瀆シ漏洩事ヲ誤リ或ハ久シク其職ニ安シセス小利ヲ見テ輕シク其業ヲ移シ或ハ商估ニ結托シテ私ニ官紀ヲ紊スカ如キコトアラハ此レ皆其職ニ忠實ナラサルモノニシテ官務ノ弊チカラサル亦之ニ職由セスレハアラス明治九年官吏懲戒例ヲ設ケ其後官吏懲戒裁判

ヲ設クルノ必要ヲ認ムト雖モ未タ實行ニ至ラス糾察督勵ノ道未タ備ハラスト云フヘシ夫レ文ヲ制シテ之ヲ定ムルハ法ニ存シ意ヲ推シテ之ヲ行フハ人ニ存ス法未タ完カラスト雖モ粗綱制アリ各者大臣宣シク其權内ニ於テ董正訓迪シ貪汚ハ之ヲ黜ケ忠順ハ之ヲ將大ノ恪勤廉潔自重誠實ノ氣風ヲ養成シ庶僚ヲシテ心ヲ專ニシ職ニ盡シ私ヲ忘レ公ニ奉セシメ以テ官紀ヲ整肅シ民信ヲ鞏クスヘシ果シテ然ラハ獨リ行政機關ノ運轉ヲ圓滑ナラシムルノ

ミナラス間接ニ風教ヲ資ケ習俗ヲ革ムルヲ得
ン其再三告諭ヲ加ヘ猶改悛ノ意ナキモノ、如キ
ハ嚴ニ處分ヲ行ヒ庶僚ヲシテ畏慎スル所アラ
シムヘシ

經費ヲ節制スル事

世運ノ進歩ニ從ヒ行政各部ノ經費年々逐テ
増加スルハ事、已ムヲ得サル、屬スト雖モ實務
ノ琴否ハ必シモ經費ノ豊約ニ比準スルモノニ
非ス只施設其機ニ合シ疾徐其宜シキヲ得
需費ノ畦畧ヲ正シ用度ノ畛域ヲ明シ以テ

十

冗濫ヲ塞キ勉メテ無用ヲ節シ之ヲ有用ニ投
スルニ在リ名ヲ行政事務ノ擴張ニ藉リテ鉅
額ノ經費ヲ要求シ漫ニ定負ヲ増加シ實際
其人ヲ置カヤルカ如キハ實ニ患フヘシ、情弊
ナリトス殊ニ前途未タ成否ヲ期スルコト能ハサル
事業ニシテ創始經營ノ際ヨリ鉅多ノ經費ヲ投
シ忽チ挫折シテ中止スルカ如キノ事例少シトセス
此等ノ弊風ハ維新ノ初年ニ多クシテ政費節
減ノ為メ其迹ヲ絶テタルモ近來氣運ノ促進
スル所トナリ復萌兆ヲ見ルニ至ル各官大官宣

シク事務ノ得失ヲ考察シ冗濫ノ弊ヲ防遏
シ行政機関ノ整備經費ノ節減ヲ圖ルベシ